

第2期北海道競馬競馬推進プラン（平成28～32年度） 中間点検（案）

推進プラン達成に向けた取組の方向性	プラン策定後、現在までの主な取組状況等	今後の取組方向
1 顧客（ファン）の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30年9月に再開したAiba札幌駅前ではインバウンド需要も見越した多言語対応のキャッシュレス機を導入 ○ 30年度よりインターネット環境の利便性向上のためホッカイドウ競馬ホームページをリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 臨場感溢れる映像を提供することに加え、地域の観光資源と連動した新たな顧客の確保、インバウンドに対応した集客対策、が必要。 ○ Aibaの集客増加を図るため、快適な空間の提供や店舗展開の不断の見直しが必要。
2 賞品（馬）と品揃え（番組）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調教用坂路の活用により、強い馬づくりが促進され、他地方競馬においても活躍。 ○ ダート競馬の最高峰であるJBC競走において、2歳カテゴリーが2020年より創設され、当面、門別で固定開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き調教用坂路を活用した馬づくりに加え、効果的な賞金諸手当の見直し、2020年から門別で実施するJBC競走2歳カテゴリーの成功に向けた取組が必要。
3 サービスの向上と発売チャンネルの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30年9月のAiba札幌駅前を再開にあたっては、キャッシュレス機の導入のほか、有料席、VIPルームに加え、カフェーバータイプの発売所も展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホッカイドウ競馬の特色である2歳馬戦情報の拡充、SNSなどホッカイドウ競馬独自の情報発信、再開したAiba札幌駅前の認知度向上などが必要。
4 事業の持続的な発展のための施設等整備並びに経営体質強化等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬を安定的に実施するため、必要機材の更新や長寿命化を図りながら、30年9月に発生した北海道胆振東部地震については、早期の再開を目指し、速やかな安全点検を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化したきゅう舎やアパート群の整備などについて、現行推進プラン期間内に検討が必要（31年度予算において基幹施設の将来構想などの構想策定費を計上）。

第2期北海道競馬推進プラン（H28～H32） 中間点検（案）

推進プラン達成に向けた取組の方向性	取組状況等	今後の取組方向
① 顧客（ファン）の拡大		
① HD化に伴う高画質な映像の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高精度化（HD化）した映像システム等を最大限活用し、臨場感に溢れ、視認性の高い高画質な映像を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 28年4月からそれまでのアナログ映像から、高精度化（HD化）した映像を提供しているところ。 ○ 30年度から、ゴール地点に設置しているトラックビジョンを更新、31年度からボラリスドーム内大型ビジョンを更新予定。 <p>○ 競馬映像については、引き続き臨場感に溢れた映像提供を進めることが必要。</p>
② 新たな顧客を意識した取組の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若者や女性など新たな顧客の確保に向け、門別競馬場等を活用した観光との連携をさらに拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 門別競馬場を日高・胆振方面のツアールートに編入するよう旅行会社等に働きかけ ・ 現在運行している札幌からの無料バスの利用客増に向け、運行方法を改良 ・ 道内の大学生など若者や女性を対象としたモニターツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 29年度よりとねっこ湯との巡回バスの取組み開始 ○ 28年度、29年に大学生（北海学園大学競馬サークル）を対象としたモニターツアー実施 <p>○ 地域の観光資源と連動したファンの確保など、地元観光協会なども交えながらさらなる取組の検討が必要。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道内の有名企業や著名人などとの連携の拡大、イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業協賛競走などの拡大 ・ 著名人との連携イベントの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 28年度よりAIRDO、ホクレンなど企業協賛デーを実施するなど連携を強化。 ○ 人気ローカルTV番組「ブギウギ専務」などでおなじみの上杉周大氏を27年度からホッカイドウ競馬オフィシャルセンターとして、「春のケイバ祭り」などでミニライブ等を実施。 ○ コンサドーレ、レバンガ北海道など道内スポーツチームとの連携企画を実施。 <p>○ 引き続き、道内企業への協賛競走を呼びかけるほか、著名人の招聘等により新たなファンの獲得につながる取組の推進が必要。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 急増している外国人観光客を意識した取組を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語パンフレットの制作やホームページで外国語による紹介など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30年9月に再開したAibあ札幌駅前では、インバウンド需要も見越した、多言語対応のキャッシュレス機を導入。 <p>○ 増加する外国人観光客向けには、多言語対応のホームページの検討や、過去に作成した外国語パンフレットのリニューアルなど隨時見直しが必要。</p>

③ J R A ファンの顧客の囲い込み		
<ul style="list-style-type: none"> ○ J-P L A C E 利用者の平日への来場促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホッカイドウ競馬の重賞日やイベント開催前の土日における広報活動を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年、全道の A i b a で「秋の全道 A i b a まつり」を展開し、認知度の向上を図っているほか、地域独自に A i b a まつりを実施している A i b a (浦河、静内) などについては、グッズの提供など積極的な側面支援に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全道的に A i b a 来場者が減する中、J-P L A C E 利用者の平日への誘導に向け、さらなる認知度の向上が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ○ I P A T の利用者の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット事業者の協力を得ながら、ホッカイドウ競馬の P R を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターネット環境の利便性向上を目指し、30年度よりホッカイドウ競馬ホームページをリニューアル ○ J R A ネットでのホッカイドウ競馬の馬券発売額は、(28年度) 37.2億円 → (29年度) 63.2億円 → (30年度) 64.5 億円と増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 29年度以降、ネットでの発売割合が8割を超える中、そのおよそ4割を占める J R A ネットでの発売は重要な位置を占めており、ホッカイドウ競馬の P R に努め、ファンの誘導を図る必要がある。
④ 競馬+アルファの創造		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 場外発売所等において集客増を図るため、顧客ニーズを的確に捉まえ、馬券購入以外の魅力を付加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場外発売所における飲食ブースの充実や団体向けスペース、有料席の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化していた旭川場外発売所については、30年3月に移転オープンし、利便性を向上。新たに旭川家具を配置した有料席も設置。 ○ 27年度末をもって閉鎖していた A i b a 札幌駅前については、30年9月に再開し、キャッシュレス機の導入や有料席、V I P ルーム、カフェバーの併設などこれまでにない場外発売所を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全道に展開する場外発売所 A i b a については、設置場所や店舗内容など、今度とも引き続き顧客ニーズを意識しながら不断の見直しを図っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と連携した A i b a まつりなどのイベントの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 每年、全道の A i b a で「秋の全道 A i b a まつり」を展開し、認知度の向上を図っているほか、地域独自に A i b a まつりを実施している A i b a (浦河、静内) などについては、グッズの提供など積極的な側面支援に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 門別競馬場の一場化に伴って全道に配置した場外発売所 A i b a については、地域に根ざす競馬ファンに向かう重要なプラットフォームとなっており、その魅力向上のため、引き続き地域と連携した A i b a まつりなどのイベントを実施し、認知度向上を図っていく
<ul style="list-style-type: none"> ○ 場外発売所等において、お客様にゆったりとくつろいでもらえるような快適で清潔な空間の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化していた旭川場外発売所については、30年3月に移転オープンし、利便性を向上。新たに旭川家具を配置した有料席も設置。 ○ 27年度末をもって閉鎖していた A i b a 札幌駅前については、30年9月に再開し、キャッシュレス機の導入や有料席、V I P ルーム、カフェバーの併設などこれまでにない場外発売所を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全道に展開する場外発売所の中には、入居する建物の老朽化や駐車スペースが狭隘であるなど、顧客対応に課題を抱えているところもあり、店舗展開については、移転や統合なども含めた不断の見直し検討が必要。

2 賞品（馬）と品揃え（番組）の充実		
① 馬の入りゅう促進と馬主の確保・拡大		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 産地関係者と他主催者の協力の下、馬の入りゅう促進と馬主の確保・拡大を推進 ○ 他主催者との交流競走の実施を通じた馬の確保対策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 賞金諸手当の増額や輸送費の補助により、馬資源の確保に努めているところ。 ○ ホッカイドウ競馬単独で実施する重賞競走23競走のうち20競走を全国地方交流競走として解放するなど馬資源の確保に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 売り上げが好調なことから他主催者においても賞金諸手当を増加する傾向にあり、北海道においても輸送費の補助や賞金諸手当については、隨時見直すなど効果的な取組が必要。 ○ 他地方馬の出走に際し、ダートグレード競走等と同様に輸送費の補助や特別出走手当の措置などの検討が必要。
② 屋内調教用坂路を活用した強い馬づくりの推進		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内調教用坂路を活用した強い馬づくりを引き続き推進 ○ 能力のある競走馬が、他主催者の競馬に出走しやすい仕組みづくりを関係団体とともに検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内調教用坂路については、23年度に完成し、24年度より供用を開始。地方他地区競馬への出走については、坂路供用開始前までは20レース以下、出走投数も30頭程度だったものが、現在では出走レースも30レース程度、出走頭数70頭程度となっている。 【22年度】 13レース、26頭 (うち入賞頭数10頭 38.5%) 【23年度】 17レース、32頭 (うち入賞頭数18頭 56.3%) ↓ 【28年度】 34レース、70頭 (うち入賞頭数39頭 55.7%) 【29年度】 30レース、71頭 (うち入賞頭数38頭 53.5%) ○ 他主催者の高額賞金レースについては当該主催者や馬主会の理解が必要となっており、現状では解放されている交流競走について能力に合わせ遠征しているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内調教用坂路については、供用開始以後、確実に効果が現れていることから、引き続きその活用による強い馬づくりを推進する。 ○ 地方競馬の全国的な競走体系整備は、個別の主催者対応だけでは実現できないため、地方競馬全国協会などが中心となった調整が必要。
③ 競馬界全体の盛り上がりに資する番組体系の再編		
<ul style="list-style-type: none"> ○ ダートグレード競走等をはじめとする中央競馬と地方競馬の交流戦の充実など全国的な番組体系再編の場に積極的に関与し、その実現をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダート競馬の最高峰であるJBC競走（現在はクラシック、スプリント、レディスクラシックの3カテゴリーを実施）において、2020年度から創設される2歳カテゴリー競走については当面の間、門別競馬場で固定開催することになったところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2020年に創設されるJBC競走2歳カテゴリーの円滑な実施に向け、必要な施設整備やJBCクラシックなど既存3競走実施主催者との連携を図っていくことが必要。

④ 魅力ある番組の追求	○ ホッカイドウ競馬の特色である2歳馬戦や牝馬戦など、その特色を活かした番組編成を引き続き推進	○ 2歳馬戦や牝馬戦など、ホッカイドウ競馬の特色を活かした番組編成をすすめているところ。	○ 引き続き2歳馬戦や牝馬戦など、特色を活かした番組編成をすすめ、ホッカイドウ競馬ならではの魅力ある番組を追求することが必要。
	○ 内回りコースを最大限活かした番組編成を引き続き実施	○ 27年度に1,600mの内回りコースを整備し、バラエティに富んだ競走を実施。	○ 内回りコースを活かした魅力ある番組づくりの検討が必要。
	○ J R A や他地方競馬との連携により騎手や競走馬の交流を拡大	○ 30年9月に発生した北海道胆振東部地震の震災復興のため、J R A や他地方競馬主催者のご厚意により有名ジョッキーを招待した競走「門別グランシャリオジョッキーズ」を開催。	○ J R A や他地方競馬との連携を図りながら、引き続き騎手や競走馬の交流を拡大を進めていくことが必要。
3 サービスの向上と発売チャネルの拡大			
① H D化に伴う高画質な映像の提供（再掲）	○ 高精度化（H D化）した映像システム等を最大限活用し、臨場感に溢れ、視認性の高い高画質な映像を提供	「1 顧客（ファン）の拡大」の①に同じ	「1 顧客（ファン）の拡大」の①に同じ
② 顧客ニーズを捉えた情報提供の充実			
○ 門別競馬場や場外発売所、ネットにおける競走関連情報の提供充実 ・ ホームページ上等で2歳馬戦を中心とした情報 ・ ホッカイドウ競馬出身馬情報など	○ 2歳馬戦情報については、どのような情報が提供できるか検討を進めているところ。 ○ ホッカイドウ競馬出身馬情報については、ホッカイドウ競馬ホームページや各A i b aにおいてお知らせし、競走関連情報の充実に取り組んでいるところ。	○ ホッカイドウ競馬の特色である2歳馬戦情報については、どのような情報が提供できるか引き続きの検討が必要。	
○ スポーツ紙等の馬柱について掲載誌や地域を拡大	○ スポーツ紙に掲載する馬柱については、掲載誌や掲載地域を拡大しており、現在は全国を網羅。	○ スポーツに掲載する馬柱については、掲載に経費がかかる一方、その掲載により競馬ファンに対し、馬柱掲載レースの認知度向上に結びつくことから、費用対効果を見極めながら効率的に進めていくことが必要。	
○ S N Sによる情報の発信	○ 地元有志による「かんばれ！ホッカイドウ競馬ブログ」を活用して新たな情報提供を図るなど、その充実に努めている。	○ ホッカイドウ競馬独自の情報発信ができるか検討が必要。	

③ あらゆる機会を捉えた発売チャンネルの拡大	○ A i b a 札幌駅前の早期再開	○ 27年度末を持って閉鎖していたA i b a 札幌駅前については、H30.9.26に再開。（多言語対応のキャッシュレス機の導入やカフェバーを併設するなど、従来型の場外発売所のイメージを打ち破るスタイルで展開）。	○ 入場者数や発売額など、27年度にいったん閉鎖したA i b a 札幌駅前の水準まで到達していないことから、認知度を向上を図る必要がある。
	○ 他主催者やネット発売、特にI P A Tによる発売機会の一層の拡大	○ 30年度から全道A i b a での南関東競馬の全レース発売を開始。 ○ ネットでの馬券発売割合は29年度より8割を超えており、その維持・拡大が重要。	○ 他主催者との発売調整や、ネット利用者への効果的なPRなど引き続き発売チャンネルの拡大を図る必要がある。
	○ 時代に即した発売手法の検討	○ 30年9月に再開したA i b a 札幌駅前については、多言語対応のキャッシュレス機の導入やカフェバーを併設するなど、従来型の場外発売所のイメージを打ち破るスタイルで展開。	○ 今後全国的な進展が見込まれるキャッシュレス化については、馬券発売の利便性向上に資することから、今後とも利用可能場所の拡大を目指していく。
4 事業の持続的な発展のための施設等整備並びに経営体質強化等			
① プラン期間内における施設・設備の計画的な整備			
○ 老朽化が特に進行し、緊急に対応が必要な施設・設備等の整備	○ 老朽化が特に進行し、緊急に対応が必要な施設・設備等については随時整備を進めているところ。	○ 長寿命化など低コスト化を意識しながら、老朽化した施設・設備等を点検していく。	
	○ 収支状況を見極めながら、顧客サービスの充実等発売拡大に資する施設・設備等の整備を検討	○ 門別競馬場においては、飲食しながら競馬を楽しむことができるよう、とねっこ広場にキャッシュレス発売機を導入するなどし、全道に展開する場外発売所A i b a についても老朽化店舗の移転（旭川）、休止地区の再開（札幌駅前）など隨時顧客サービスの充実を図っている。	○ 収支状況とのバランスを考慮しつつ、引き続き顧客サービスの充実等発売拡大に資する施設・設備等の整備の検討が必要。
	○ 安全対策等競馬を安定的に実施するための施設等の整備	○ 競馬を安定的に実施するため施設等については、必要機材の更新や長寿命化などを図っているが、特に30年9月に発生した北海道胆振東部地震への対応に当たっては、安全に問題がないか速やかな点検を実施。	○ 競馬を安定的に実施するため必要に応じた施設等の整備を検討。

② 経営体質強化に向けた取組の推進		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務内容を常に点検し、効率的な運営に努め、経費を節減 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬を安定的に実施するため施設等については、必要機材の更新や長寿命化などを図っているが、特に30年9月に発生した北海道胆振東部地震への対応に当たっては、安全に問題がないか速やかな点検を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、発売額が200億円を超えるなど概ね好調ではあるものの、過去に経営悪化した経験も踏まえ、効率的な運営による経費節減の意識をホッカイドウ競馬関係者全体で共有していくことが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 整備に向けた、各種補助事業・助成事業の積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の施設整備に当たっては、平成30年度に農林水産大臣に認定された競馬活性化計画（H30～35）に基づく補助事業を図るほか、適宜JRA等の補助事業の活用も視野に入れて対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の施設整備に当たっては、情報収集に努め、各種補助事業・助成事業の積極的な活用を図り、低コスト化を目指す。
③ 門別競馬場などの競馬運営の基幹施設に係るあり方などの検討		
<ul style="list-style-type: none"> ○ きゅう舎やアパート群の整備など門別競馬場の基幹施設の将来構想について、プラン期間内に検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 31年度予算において構想策定費を計上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ きゅう舎やアパート群の整備など門別競馬場の基幹施設の将来構想について、引き続き現行プラン期間内に検討